



ミラクルグリップ40S

用途：拘縮予防 拘縮対策 血行促進運動

サイズ：直径 40×120mm



ミラクルグリップ60

用途：少し開いた拘縮予防 対策

サイズ：直径 60×200mm



ミラクルグリップ200



用途：肘・脇・膝等拘縮予防 対策

サイズ：直径 170x170x50mm

ミラクルグリップフィットネス

用途：手指運動・認知症予防

サイズ：直径40×120mm



ミラクルグリップG

用途：足指拘縮対策・足指握力鍛錬・浮指・外反母趾

サイズ：直径 直径 40x120mm

ミラクルグリップ40S



ミラクルグリップ40Sは、ランダムに反発する3D網状高反発クッションと指間を刺激し脳を活性化する3枚のフィンで構成されています。拘縮した手指の中にミラクルグリップ40Sをすると、高反発クッションが拘縮した手指を開く方向に反発し、すると拘縮の原因である屈筋が握る方向に働きます。この24時間繰り返し続く開く握る運動によって、血行が促進し手指が緩んできます。手指の握力を高めたい方、手指の運動をしたい入院中・介護施設に居られる方に最適です。

ミラクルグリップ60



ミラクルグリップ60は、直径60mmの高反発クッショングリップです。手指が少し開いている方、またミラクルグリップ40Sを使用して手指が緩んで、さらに緩めたい方用です。直径が太いので、脇・肘・膝の拘縮部に挟んでお使いください。高反発クッションが反発し微かな開く締める24H運動が始まります。

ミラクルグリップ200



ミラクルグリップ200は、脇・肘・膝等の拘縮部に挟んで使う高反発クッショングリップです。

脚・膝・足等の拘縮は、着替え、おむつ替え時に骨折する原因にもなりかねません。

拘縮部に高反発クッショングリップを挟むと、開く閉まるの運動が始まります。

ミラクルグリップフィットネス



ミラクルグリップ フィットネスは、健常者用の高反発グリップです。軽く握っているだけでも開く握るの運動が始まります。手指の運動は、脳を刺激し、血行を促進します。

健康な方、入院中の方、リハビリ中の方、介護施設に居られる方に最適です。

ミラクルグリップG



ミラクルグリップGは、足指用の高反発グリップです。

ミラクルグリップGを装着するだけで、指の運動が始まります。

運動は、血行を促進し、足指の拘縮を緩めることが期待できます。

アスリートや健常者、高齢者等が装着したまま歩いたり、屈伸したり、軽いスクワット等をするとう足指が高反発グリップを握る運動となります。足指が高反発グリップを握る運動は、タオルギャザリング以上に負荷が強く、握力を高め、地面をつかむ感覚が実感でき浮指を解消します。アスリートにとって、足指のグリップ力が高まることは運動能力の向上を意味し、高齢者にとっては転倒予防となります。

指間にある4枚のフィンは、5本の指を広げ地面をつかみやすくします。5本の足指を広げる運動は外反母趾、内反小趾の好転が期待できます。

ミラクルグリップ

取扱説明書

この度はミラクルグリップをお買求めいただきまして、誠にありがとうございます。
正しくお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。

— ご使用方法 —

- Step1. 手指の拘縮が酷い方は①のように小指・薬指だけグリップを握るように装着してください。
Step2. グリップを手指全体で握れるようになれば②のように装着してください。
Step3. 指と指の間にフィンを通して握ってください。
(フィンとフィンの上に指を通せない場合はフィン部分を切り除いても結構です。)
Step4. 本品が手から落ちないように④のようにマジックテープで調整して装着してください。
Step5. 手指がある程度開いている方はより太いミラクルグリップ60をご活用ください。
(↑は脇の下・両膝の間にも使用いただけます)



— お手入れ方法 —

- 洗濯機での丸洗い可能です。

— 仕様 —

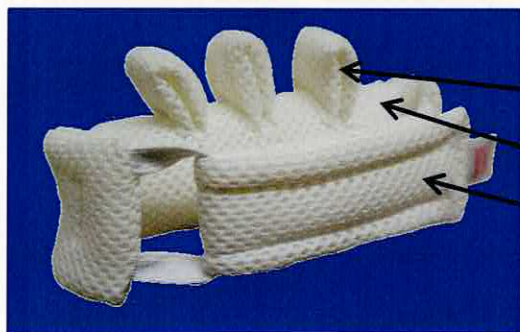
カバー材: ポリエステル 100%
芯材: ポリエチレン 100%
抗菌消臭剤: リン酸チタニア系無光触媒 (防菌及び消臭効果)



注意事項

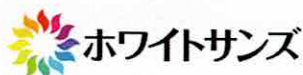
- 装着の際、骨折や怪我のないよう十分にご注意ください。
- 拘縮が酷い場合、又は皮膚が薄く指通しをして擦れてしまう場合は、フィンを手で切り除いてご利用ください。
- アレルギーの原因となる素材は使用しておりませんが、万一症状が出た場合又は、その他ご使用により出血や皮膚の擦れ、褥瘡等、異常が見られた場合にはご使用を中止して、医師の診察を受けてください。
- ごく稀に内部のクッション繊維がカバーより出る場合がございます。
万一繊維が出ている場合はハサミで切り、カバーを摘み上げていただければ繊維は出なくなります。
- 日陰干しにして、乾燥機は使用しないでください。

— 商品部分名称 —



フィン
グリップ部分
マジックテープ(内側)

— お問い合わせ —



株式会社ホワイトサンズ
〒467-0048
名古屋市瑞穂区弥富ヶ丘町1-4-4
TEL: 052-838-6203
FAX: 052-838-6204
URL: <http://whitesuns.com>
<http://miraclegrip.jp>

2016年4月22日掲載

脳卒中後の手の拘縮を速やかに改善する

NPO発表
高反発グリップ使用

「脳卒中などの後遺症で片手を強く握り締めて固まる『拘縮』症状がある百人が、反発力が強いポリエチレン製グリップを握ると、一、二カ月で八割の人が固まりが緩み指が開くなど症状が改善したことが分かった。二十一日、名古屋市のNPO法人「健康な脳づくり」が発表。脳にいい刺激が伝わり、認知症予防にもつながる効果が期待できるという。

（室木泰彦）

(室木泰彦)

グリップは、NPOに
参加するホワイトサ
ンズ(名古屋瑞穂区)
が開発した「ミラクル
グリップ」。約三年前
から販売している。N
POは効果を検証する
ため、全国各地の医療
機関などの協力で患者
ら百人に試した。

「拘縮」は手をぎゅ
っと握り、ひどい場合
は爪先が皮膚に食い込
み悪臭を発するほどの
感染症を起こす場合も
ある。手のひらを何と
握るよう刺激が脳に伝
わる効果があるとい

ってもらうと、ポリエ
チレンの開こうとする
力が常に抵抗するた
め、無意識のうちに手
のひらの反復運動をす

۱۵۰

これを一日二十四時間続けた結果、約八割の人の症状が一、二カ月で改善。手の指が五センチ以上開くようになり、肘や肩の関節の動く範囲も広がった。悪臭がする感染した。患者がする感

滅。六人は、失つた言葉を少しずつ話すようになった。パーキンソン病や認知症患者でも改善効果がみられたという。

NPO理事長の西野仁雄・名古屋市立大名

すれば本格的なりハビリに移行しやすくなる。手をリズミカルに動かす効果の大きさが証明できた」と説明。今後は認知症予防にとれくらい効果があるか検証する考えだ。

仁雄・名古屋市立大名二校証する考えた



①手を握りしめる「拘攣」症状 ②高反発グリップを約1カ月間握り、指が
開くように ③ミラクルグリップ いずれもNPO法人健康な脳づくり提供

NPO法人 健康な脳づくり

<http://kennou.org>

(NPO法人 健康な脳づくり)

<http://miraclegrip.jp>

(ミラクルグリップ®製品説明)

問合せ先: TEL:(052) 838-6203 FAX:(052) 838-6204

くらしナビ 医療・健康

グリップ握り後遺症改善

脳梗塞、認知症患者らに1カ月調査

脳梗塞や認知症などの後遺症で手を握りしめたままになった人に、高い反発力を持つクッションでできたグリップを約1カ月握らせたところ、指がほぐれ、発語するなどの症状の改善がみられた。指を繰り返し動かし脳を刺激したためと考えられ、予防効果も期待される。

●手指動き、発語も

高反発力グリップの研究結果は、名古屋市立大元学長の西野仁雄・同大名誉教授(脳生理学)が2013年、日本神経科学学会で発表した。グリップは、ベッドのマットレスなどに使われるポリエチレン繊維で、大きさは直径4センチ、長さ12センチ。脳梗塞、脳出血、パーキンソン病、認知症などの患者で、運動不足の結果として指を固く握ったまま(拘縮状態)の人を対象に、両手にグリップを1個ずつほぼ24時間、1カ月間握らせた。参加した65人のうち、ほとんどの人は手指が伸び、緊張が緩むなど症状が改善。中には手首、ひじ、脇の動きが広がった人もいた。また何年も言葉を発しなかった人たちのうち、6人が「暑い」「痛い」などと話すようになった。

西野名誉教授の分析による



握ることで脳に刺激を与えることができるという高反発力クッションでできたグリップ＝名古屋市瑞穂区の名古屋市立大で

と、改善した経過は次のように考えられる。患者がグリップを握りしめた結果、クッションが反発し、指を伸ばす力が働く。再び握ろうとすると「反発を受ける」「握る」「伸ばす」という運動を無意識に繰り返すことになる。指を強く曲げる方向だけになっていた感覚から、心地よい自然な感覚と刺激が脊髄と脳に送られ、脳の働きが活性化して正常に近い手の運動ができるようになる好循環が生まれた。手と口は密接な関係にあり、やがては口も正常な運動(発語)ができるようになったとみられる。

●「反発力」で血流上昇

「脳と脊髄で、感覚系と運動系の連携が再構築された結果」と西野名誉教授。熱心にリハビリを続けたのと同様の効果が表れたと分析している。

拘縮状態の患者には、爪が手

のひらに食い込んで傷つけることを防ぐためタオルやガーゼで作ったグリップを握らせることがある。だが、反発力がないグリップでは指を伸ばす力は働かない。拘縮がかえって強まり、握らせない方がよいとされた。一方、高反発力グリップを握らせると、爪の食い込みが防げ、さらに脳の前頭葉の血流が「握っていない時」や「タオルを握った時」に比べて上昇した。

西野名誉教授は以前から、「手足と口の運動によって脳を活性化しよう」と提唱してきた。12年春、運動遊具メーカー「ホワイトサンズ」(名古屋市瑞穂区、電話052・8338・6203)の白木基之代表から、床に敷く高反発力クッションの上で高齢者が足踏み運動をする、足腰が鍛えられ、転倒予防になるとの報告を聞いた。西野名誉教授は、クッションでの足踏みで脳の血流が上昇することを確認し、同じ材質のグリップを握らせることを発案。専用のグリップを2人で開発し、同社で製品化した。

40～50歳代のころから、認知症になりにくい生活習慣を身につけるため、バランスの良い食事や人との交流に加え、運動習慣の重要性が注目されている。西野名誉教授は「グリップを使いながら、手指の運動で脳の健康を保ってほしい」と話す。